

台灣高階日語學習者邏輯表達能力之研究 —以日文演講稿為分析對象—

本間美穗

銘傳大學應用日語學系／助理教授

摘 要

本研究針對台灣的大學日文系四年級學生（具備高階日文能力）所撰寫的日文自我意見陳述演講稿，進行邏輯結構及內容分析，以了解學生的邏輯表達能力現況。希望藉此獲得大學日語教育過程中有效培育學生符合邏輯思考表達能力的研究成果。

進行邏輯結構分析後，得到以下 3 項結論。

- (1) 適用於論說文、演講稿撰寫的「三段式結構」及「首尾雙括式結構」，已經廣為多數學習者所認知和運用。
- (2) 對於自我意見陳述演講的文章構成基本要素及理論性思辯，學習者還不能充分理解並運用。
- (3) 適用於自我意見陳述演講稿撰寫的「西方邏輯系統」，學習者還不能充分掌握並運用。

同時，在進行內容分析後，得到以下 2 項結論。

- (1) 針對某一議題，學習者還不太能夠應用查證過的資訊，構築成邏輯通順、段落適當、清晰易懂的日文演講稿。
- (2) 應用適切且客觀的事例，條理清晰地陳述自己意見具有正當性與優越性的處理手法，對學習者來說並不容易。

關鍵詞：邏輯表達能力、演講稿、邏輯結構、內容分析、
大學日語教育

台湾人上級日本語学習者の論理的表現力に関する研究 —スピーチ原稿をデータとして—

本間美穂

銘伝大学応用日本語学科／助理教授

要 旨

本稿の目的は、台湾の大学の日本語学科 4 年生（上級レベル）が書いた意見表明のスピーチ原稿を論理構成面及び内容面から分析してその論理的表現力の実態を明らかにし、大学日本語教育における論理的表現力育成の指導に役立つ知見を得ることである。

分析の結果、論理構成面について次の 3 点が明らかになった。

- (1) 論理的文章やスピーチ原稿に適した「三段落構成」と「双括型」はかなり定着している。
- (2) 意見表明スピーチの基本的構成要素とその配置については、まだ十分理解・習得できていない。
- (3) 意見表明スピーチに適した「西洋的論理体系」はあまり定着・習熟していない。

また、内容面について次の 2 点が明らかになった。

- (1) あるテーマについて、精査した情報を基に筋道を立てて矛盾なく考えを構築し、各段落・各構成要素を適当な長さにして、分かりやすく伝える力はまだ十分身に付いていない。
- (2) 自分の主張の正当性や優位性を適切かつ客観的な事実を用いて秩序立てて述べるのが不得手である。

キーワード：論理的表現力、スピーチ原稿、論理構成、内容分析、大学日本語教育

**A Research on Logical Expressive Ability of
Taiwan's Advanced Japanese Language Learners:
Take Japanese Speech Scripts as Analytical Objects**

Homma Miho

Assistant Professor/ Dept. of Applied Japanese, Ming Chuan Univ.

Abstract

Taking the speech scripts of opinion expression written by Taiwan's senior college students majoring in Japanese language as objects, this study aims to discover the logical expressive ability of advanced learners.

With the method of structural analysis, three conclusions are drawn as follows: (1) The "three-section structure" and the "head and tail format" are clearly understood and widely used by most of the advanced students. (2) Beside their inability in theoretical speculation, the advanced learners are unable to manage the basic structure and the elements of the kind of speech expressing personal perspectives, either. (3) The western argumentative mode which can be applied to composition of opinion expression speech is seldom adopted, showing students' unfamiliarity with the pattern.

Apart from above, two suggestions are also made by the researcher through conducting the method of content analysis. (1) The advanced learners are unable to write a logical, appropriate and clear speech script in Japanese on a specific issue with verified information. (2) It seems difficult for the advanced learners to express views in an organized way with subjective evidence and make their opinions valid and advantageous.

Keywords: Logical Expressive Ability, Speech Script, Logical Structure, Content Analysis, Japanese Language Education at University

台湾人上級日本語学習者の論理的表現力に関する研究 —スピーチ原稿をデータとして—

本間美穂

銘伝大学応用日本語学科／助理教授

1. はじめに

グローバル化と高度情報化の更なる進展、絶え間ない技術革新、急激な少子高齢化等により社会全体が加速度的に変化するなか、学士レベルの資質能力¹を備える人材育成が重要な課題になっている。そうしたなか、教育現場から大学生の論理的思考力や論理的表現力の低下を指摘する声が上がっている²。多くの大学教員がこうした現状認識と危機感を共有し、改善策を模索している。日本語学科³においても、論理的思考を伴う日本語表現力の育成を目指す様々な取り組みがなされている。そして、それに関して、土岐（2001:8-9）や古賀・青木（2012:136）などの研究者がスピーチ原稿作成指導の有用性を指摘している。

そこで本稿では、台湾の大学の日本語学科4年生（上級レベル）が書いた意見表明スピーチの原稿を論理構成面及び内容面から分析して、その論理的表現力の実態を明らかにし、今後の指導案や実践計画の作成に役立つ視点や知見を得たいと思う。

¹ 「学士レベルの資質能力」の指標については、日本の中央教育審議会の『学士課程教育の構築に向けて（答申）』（2008:12-13）が参考にできる。中教審は同答申のなかで、大学教育において各専攻分野を通じて培う「学士力」として、「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「総合的な学習経験と創造的思考力」の4つを提示している。そのうちの「汎用的技能」は、「知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能」とされ、ある物事について、精査した情報を基に筋道を立てて考えを構築し、それを文章や発話によって分かりやすく伝える力、いわゆる「論理的思考力」と「論理的表現力」が含まれる。

² 顔聖紘「大學生寫作與論述能力低落的根本原因是什麼？」鳴人堂、2015年（最終閲覧日：2020.08.18）<https://opinion.udn.com/opinion/story/7492/1204690> 参照。

³ 本稿では、台湾の大学に設置されている「日本語文學系」「應用日語學系」などを一括して「日本語学科」とする。

2. 用語の定義

本稿では諸説を参考に⁴、「スピーチ」を「一人の話し手が多数の聞き手に対し、自分の思いや考えを伝える口頭の言語行為」、「論理的思考力」を「ある物事を知識や情報に基づいて筋道立てて思考する力」、「論理的表現力」を「ある物事について自分の考えなどを分かりやすく効果的に伝えるために、どのような要素・材料が必要か、それらをどのように並べればよいか筋道立てて思考し、表現する力」と定義する。

3. 先行研究

ここではまず、日本語表現法の専門書や学習教材を基に日本語のスピーチの基本構成を確認する。次に、日本人大学生の論理的表現力育成にスピーチ原稿の作成指導を取り入れた実証研究などを概観し、自分の意見や考えを相手に分かりやすく説得力をもって伝えるためのスピーチの基本的構成要素とその配置を確認する。最後に、台湾の日本語上級者の論理的表現力に関する先行研究を概観する。

3.1 スピーチの基本構成

スピーチは、「序論・本論・結論」の三段落構成にすると聞き手にとって理解しやすいとされている（宇野 1989:88）。次の表 1 は、日本語の論理的文章の書き方について解説した古宮（2018:1-2）が示したスピーチ原稿に活用できる三段落構成の内容やポイントなどを整理したものである。

表 1 古宮（2018:1-2）の理解しやすいスピーチの基本構成

構成	内容	割合	ポイント
序論	問題（話題）を提起したうえで、結論を予告する。	1～2割	序論では、論題に対する自分の主張を明確に示す。できるだけ簡潔に。
本論	問題（話題）提起に対する	6～7割	本論の根拠や反論には、客観

⁴ 国際交流基金（2007:39）、井上（1989:32）、橋本（2008:15-17、2010:1-2）、古賀・青木（2012:138）など参考。

	根拠や反論などを挙げながら、具体的に説明する。		的な情報を示す。十分な説明が必要。ボリュームを置く。
結 論	自分の立場や主張を明確にして、論を締め括る。	1~2割	結論と序論の主張がずれてはならない。一貫性が大切。

三段落構成は、「序論」と「結論」で主張を繰り返す「双括型」、「序論」で主張を示す「頭括型」、「結論」で主張を述べる「尾括型」の3タイプに分けられるが、古宮（2018:2）は、主張が印象付けられるので「双括型」が適した形だと述べている。また、日本語のスピーチの構成について解説した坂口（2018:1）は、「双括型」にすることで聞き手にとって理解しやすいスピーチになると述べている。

3.2 意見表明型スピーチの基本的構成要素と展開

牧野・永野（1998）は、日本の大学生が合理的な論証をもって相手を説得する「米国式表現法に学ぶ」ためのカリキュラムを開発し、その成果を検証している。牧野・永野（1998）では、学生が米国式主張表現の論理構成を理解できるように、次の図1に示す「問題となる背景」「主張」「根拠」「サポート材料」「予想される反論」「論破」「結論」の7つの要素の関係を図式化した「主張表現メカニズム図」を用い、スピーチの指導・演習・評価を行っている。

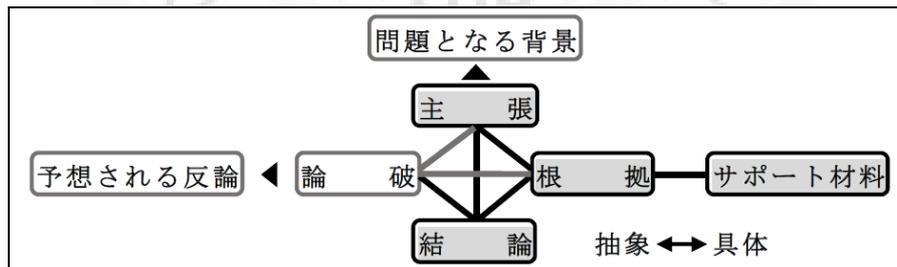


図1 牧野・永野（2002:228）の主張表現メカニズム図

その結果、カリキュラム体験前には「反論」を予想し、それに対する「論破」を適切に行った学生は全体の17%程度だったが、カリキュラム体験後には87%が自分とは対立する立場の存在を認識し、なぜ自分の主張の方が相手に優るのかを的確に理由付けており、学

生のスピーチに明らかな変化が見られたと報告している。

その後、牧野・永野（2002:227）は、スピーチの論理体系を次の表2に示す「西洋的な論理体系」と「日本的な論理体系」に分け、それぞれの構成要素と効果的な使用場面を示し、場面や聞き手の状況に応じた使い分けの能力を身に付けることが重要だと述べている。

表2 牧野・永野（2002:227）のスピーチの論理体系

	西洋的な論理体系	日本的な論理体系
構成要素	問題となる背景、主張、根拠、サポート材料、予想される反論、論破、結論の7要素	問題となる背景、主張、根拠、サポート材料、結論の5要素
効果的な使用場面	「対立」関係にある聞き手に対して自分の主張の優位性を証明したいような場面	「共感」関係をつくることで聞き手の視点を話し手の視点と同化させたいような場面

一方、橋本（2008）は、日本人大学生と日本語学習者の論理的表現力育成のために考案した「スピーチ構成図」を活用した授業実践報告である。橋本（2008:18）の「スピーチ構成図」は、次の図2に示すように、論理的構成に最低限必要な要素を、「導入→主張→理由→理由の裏づけ→反論→結論」という順に時系列で配置している。橋本（2008:20, 2010:3）の「反論」は、牧野・永野（1998, 2002）の「予想される反論」と「論破」の2要素に相当する。



図2 橋本（2008:18）のスピーチ構成図

橋本（2008:29-30）は、実際に授業で日本人大学生に「スピーチ構成図」を使って原稿作成や発表などをさせた結果、論理的な構成に最も重要な「主張」「理由」「結論」はしっかりと述べられているが、「導入」「理由の裏づけ」「反論」の3要素は論理的に弱く、特に「反論」をうまく構築できない学生が見られたと報告している。

その後、橋本（2010:5-6）では、教育活動の第一段階（独話能力の育成）で最も重要なのは「主張」「理由」「結論」によって自分の言わんとすることを設計する能力を身に付けることであるが、第二段階（共話・対話コミュニケーション能力の育成）では他者からの質問や反論にどう対応し、いかに結論付けるかを訓練することが必要になると述べている。そして、「反論」をうまく構築できない学生への対策として、ピア・レスポンス活動を実践し、成果を得ている。

その他、日本の大学で文章指導を行っている飯間（2008:4-5, 248, 257）は、文章には、「事実・感想」の2要素から成る「日記文」と、「問題・結論・理由」の3要素を備えた「クイズ文」の2つがあり、「自分の考えたことを文章にして、読者に間違いなく伝える」には、物事を筋道を立てて考える「クイズ文」が適していると述べている。また、「クイズ文」に説得力も持たせる形式・型として、「背景説明→問題→結論→理由→理由を支える証拠→想定される反論→反論に対する再反論→結論の確認」を提示し、「資料的な裏づけを取る」とこと「反論に備える」ことがポイントだと述べている。

本稿では、上述の先行研究を参考に、自分の意見や考えを相手に分かりやすく説得力をもって伝えるためのスピーチは、基本的に「《導入》→《主張》→《理由》→《証拠》→《反論》→《論破》→《結論》」の7要素から構成され、矢印で示した順に論が展開されるものとする。これら基本的構成要素の「序論・本論・結論」の三段落構成における配置、定義、ポイントは、下記表4に詳しく示す。

3.3 台湾人学習者の論理的表現力

本間（2020）は、台湾の大学の日本語学科4年生計30名（上級レベル）が同一テーマで書いた意見表明のスピーチ原稿を構成面から分析し、論理的な文章やスピーチ原稿の作成に適した「三段落構成」と「双括型」の2つの型はかなり定着しているが、「本論」の「理由→サポート材料→予想される反論→論破」の4つの基本的構成要素とその配置についてはまだ十分理解・習得できておらず、「予想され

る反論」と「論破」を含む「西洋的論理体系」の習熟度が低いことを明らかにしている。

論理的表現力育成の観点から台湾人日本語学習者のスピーチ原稿を分析した先行研究は、管見の限り本間（2020）以外見当たらない。台湾人日本語学習者を対象とする論理的表現力育成のためのスピーチ原稿作成指導法を考えるには、更に知見を深める必要がある。

4. 研究方法

本稿は、大学卒業を目前に控えた日本語学科4年生（上級レベル）を調査対象とし、既に高い言語知識を身に付け、日常会話にはそれほど困らない彼らが、進学・就職後において必要とされるであろう日本語による論理的表現力をどの程度身に付けているかを、彼らが書いた意見表明のスピーチ原稿の分析を通して明らかにすることを目的とする。調査概要と分析方法は以下の通りである。

本調査では、分析結果にテーマによる偏りが出ないように、台湾の大学の日本語学科4年生（以下、（台湾人上級）学習者）3グループ（各グループ19名、計57名）がそれぞれ異なるテーマで書いた意見表明のスピーチ原稿を収集して分析を行うことにした。なお、調査対象者は全員3年次の会話や作文の授業などでスピーチや意見文の論理構成の基本型⁵について説明・指導を受けている。本調査の実施時期と対象者に関する情報を、次の表3に示す。

表3 本調査の実施時期・対象者など

区分	実施時期 [テーマ略称]	対象者			
		人数 (男女内訳)	平均 年齢	日本語 レベル	日本留学 経験者
調査 I	2019年5月 [GMO]	19名 (男6名、女13名)	22.3 歳	上級 (全員N1取得)	一年9名 半年2名
調査 II	2019年5月 [コンビニ]	19名 (男6名、女13名)	21.9 歳	上級 (全員N1取得)	一年5名 半年2名
調査	2020年4月	19名	21.7	上級	一年12名

⁵ 本稿表2に示した牧野・永野（2002）の「日本的／西洋的な論理体系」とほぼ一致している。

III	[マスク]	(男 5 名、女 14 名)	歳	(全員 N1 取得)	半年 0 名
-----	-------	----------------	---	------------	--------

表 3 に示した調査I～IIIの対象者各 19 名に 1 週間の時間を与え、それぞれ「台湾における遺伝子組換え作物 (GMO) の商業栽培に関する私の意見 (以下、[GMO])」⁶「日本のコンビニ 24 時間営業に関する私の意見 (以下、[コンビニ])」⁷「台湾のマスク外交に関する私の意見 (以下、[マスク])」⁸ というテーマで、3 分間スピーチの原稿を作成させ(1分間 300 字を文字数の目安とした)、回収した。

今回、調査対象者に作成させたのは全て賛否が大きく分かれるテーマであり、自分の意見とその根拠に加え、対立する意見とそれへの反駁を述べて自分の意見の優位性を示す「西洋的な論理体系」を使う方がより適切だと考えられる(表 2 参照)。そこで、本稿では前述したように、「《導入》→《主張》→《理由》→《証拠》→《反論》→《論破》→《結論》」を効果的な意見表明スピーチにおける論理構成の基本型とする。次の表 4 に 7 つの基本的構成要素の「序論」「本

⁶ 調査Iの課題:「現在、「遺伝子組換え作物」(以下、GMO)が世界中で普及しています。しかし、台湾ではまだ GMO の輸入や流通、加工に厳しい規制が設けられており、「商業栽培」も禁止されています。そのため、「台湾でも GMO の商業栽培を解禁するべきだ」と言う人がいます。その一方で、「GMO の商業栽培を解禁するべきではない」と言う人もいます。あなたはどのように思いますか。「台湾における遺伝子組換え作物 (GMO) の商業栽培に関する私の意見」というテーマで、3 分間スピーチの原稿を作成してください。」

⁷ 調査IIの課題:「日本ではコンビニの 24 時間営業の是非が議論になっています。発端は、あるセブンイレブン加盟店オーナーが人手不足を理由に深夜の営業時間を短縮したところ、本部に契約解除と違約金 1700 万円を求められたことです。消費者の多くは加盟店オーナーたちの苦境を知り、24 時間営業の廃止に賛成していますが、「困る」「不便」など継続を求める声もあります。あなたはどのように思いますか。「日本のコンビニ 24 時間営業に関する私の意見」というテーマで、3 分間スピーチの原稿を作成してください。」

⁸ 調査IIIの課題:「台湾政府は 4 月 1 日、人道支援の一環として、新型コロナウイルスの感染が深刻な欧米諸国や外交関係を結ぶ国々に、医療用マスク 1000 万枚を寄贈すると発表しました。また 7 日には、東南アジアや南アジアの国々にも 100 万枚以上を無償提供する方針を明らかにしました。台湾国内ではこの「マスク外交」に対して賛否両論がありますが、あなたはどのように考えますか。「台湾のマスク外交に関する私の意見」というテーマで、3 分間スピーチの原稿を作成してください。」

論」「結論」の各段落における配置、定義、ポイントを示す。

表 4 本研究における分類基準

効果的な意見表明スピーチの基本的構成要素と配置

段落 (割合)	各段落の主な構成要素とその定義・ポイント
序論 (1~2割)	①《導入》: 主題の提起。聞き手の興味・関心を引くことも含む。 ②《主張》: 主題に対する話し手の意見。《理由》と《証拠》によって裏付けられる。 ※「序論」はできるだけ簡潔にする。
本論 (6~7割)	③《理由》: 話し手の主張を支える抽象的な概念。《主張》の後に続いて、「なぜなら」によって結ぶことができる。 ④《証拠》: 理由を具体化する材料や理由の真実性を立証するデータ。事例・報告・統計など客観的な材料を用い、具体的に述べる。《理由》の後に続いて、「例えば」によって結ぶことができる。 ⑤《反論》: 話し手の主張と対立する意見。「確かに~である」という表現を用いることができる。 ⑥《論破》: 反論に対して話し手の主張の優位性を示す見解、或いは反論の弱点の指摘。客観的な情報を示し、十分な説明をする。《反論》の「確かに~である」の後に続いて、「しかし」によって結ぶことができる。
結論 (1~2割)	⑦《結論》: 理由、証拠、反論、論破の全てを考慮した結果、導き出された最終的な意見。主張の強化。総括。 ※「結論」は、《主張》とずれてはならない。《結論》の後、提言・所感・質問等でスピーチを締め括ることもできる。

本稿では、台湾人上級学習者の論理的表現力の実態を把握するため、上記表 4 に示した内容を分類基準とし、収集したスピーチ原稿計 57 篇を、論理構成面と内容面から分析して、それぞれの側面における傾向と問題点を明らかにする。なお、分析の便宜上、最終段落を「結論」、最終段落で述べられる意見を《結論》と、括弧の違いによって区別する。また、「序論」「本論」「結論」の 3 つの段落の区分は、学習者が改行によって区切った形式段落ではなく、上記表 4 に示した内容を基準とし、内容的なまとまりに基づいて行う⁹。例えば、

⁹ 長尾 (1992:26) では、文章を構成する部分として区分される「段落」を、(1)「形式段落」(改行によって形式上区切られたもの)、(2)「内容段落」(内容上の観点からいくつかの部分をもとめたもの)の 2 つに分類している。

下記表 5「学習者のスピーチ原稿 1 ([コンビニ] 全文)」の場合、第 1 段落 5 行目の初めまでが《導入》と《主張》から成る「序論」、それ以降が《理由》《証拠》《反論》《論破》から成る「本論」、第 5 段落が《結論》と《所感》から成る「結論」の段落に区分される。また、以下に挙げる文章例中の「○○→」、「《○○》」、下線は、筆者が書き入れたものである。「○○→」は「序論」「本論」「結論」の各段落の始まりを示し、「《○○》」は 7 つの基本的構成要素中のどれにあたるかを示す。

表 5 学習者のスピーチ原稿 1 ([コンビニ] 全文)

<p>序論→《導入》あるコンビニ加盟店のオーナーが人手不足を理由に営業時間を短縮したところ、本部に違約金を要求されたという記事を読みました。この記事をきっかけとするコンビニの 24 時間営業の論争もよく耳にします。</p> <p>《主張》コンビニの 24 時間営業について、賛成する人も反対する人もいますが、私は反対です。本論→理由は 2 つあります。</p> <p>《理由》一つ目は人手不足です。《証拠》深夜は一般人の寝る時間です。この時間帯に働くのは大変だから、時給が他の時間より高くても、働く人はなかなか見つかりません。新聞記事によると、あるコンビニのオーナーは人手不足で、労働時間は非常に伸びたそうです。</p> <p>《理由》二つ目は犯罪問題です。《証拠》警察庁の資料によると、他の商店と比較すると、コンビニの強盗被害が一番多いです。特に、午前 1 時から午前 5 時までは全体の 76.5% を占めています。昼間に比べて、深夜コンビニにいる人は少ないです。この状況で、店員は強盗被害に遭ったら、怪我をするかもしれません。</p> <p>《反論》コンビニの 24 時間営業を賛成する理由はだいたい便利性です。</p> <p>《論破》確かに、仕事が長引いて、夜遅くなった時とか、夜中お腹がすいた時とか、いつでも食べ物が買えるのはコンビニです。それに近年、学費などの支払いもコンビニでできるようになりました。他には、チケットの販売や宅配便の受付などのサービスもあります。まるでドラえもんのようなコンビニですが、実はコンビニで働く人の犠牲の上に成り立っているのです。アンケート調査によれば、コンビニへ食品を買いに行くのは一番多いです。しかし、お腹がすいたら、自炊したり、事前にカップラーメンを買っておいたりするのもいい方法ではないでしょうか。それに、アンケート調査によれば、深夜 24 時から朝 6 時までの時間帯はコンビニの利用者は他の時間より少ないです。そう考えれば、24 時間営業しなくてもいいでしょう。</p> <p>結論→《結論》以上から、コンビニを 24 時間営業する必要はないと思います。《所感》24 時間営業しなかったら、生活はちょっと不便になりますが、きっと解決方法があると思います。</p>
--

5. 分析と考察

ここでは、上記表 4 の分類基準を用い、台湾人上級学習者の意見表明のスピーチ原稿 57 篇を、論理構成面 (5.1) と内容面 (5.2) から分析して、それぞれの側面における傾向と問題点を明らかにする。

5.1 論理構成面における傾向と問題点

本稿では、論理構成のタイプを以下の基準で分類した。まず、段落構成により大きく「序論・本論・結論」の「三段落構成」と「序論・本論」の「二段落構成」の 2 つに分けた。次に、牧野・永野 (2002:227) を参考に、「本論」における《反論》と《論破》の有無により、「西洋的論理体系」と「日本的論理体系」の 2 つに分けた (表 2 参照)。更に、意見の出現位置により「双括型」「頭括型」「尾括型」の 3 つに分けた。

上述の基準に従い学習者のスピーチ原稿計 57 篇の論理構成を分析した結果、次の表 6 に示した 6 タイプの論理構成が観察された。

表 6 学習者のスピーチ原稿 57 篇における論理構成のタイプ

論理展開のタイプ	篇数 (%)			
	GMO	コンビニ	マスク	合計
(1) 三段落・日本的・双括型	10 (52.6)	8 (42.1)	8 (42.1)	26 (45.6)
(2) 三段落・西洋的・双括型	6 (31.6)	6 (31.6)	7 (36.8)	19 (33.3)
(3) 二段落・西洋的・頭括型	1 (5.3)	2 (10.5)	1 (5.3)	4 (7.0)
(4) 二段落・日本的・頭括型	0 (0.0)	1 (5.3)	2 (10.5)	3 (5.3)
(5) 三段落・日本的・尾括型	1 (5.3)	2 (10.5)	0 (0.0)	3 (5.3)
(6) 三段落・西洋的・尾括型	1 (5.3)	0 (0.0)	1 (5.3)	2 (3.5)
合計	19(100.0)	19(100.0)	19(100.0)	57(100.0)

整理すると、まず、段落構成については、「三段落構成」が計 50 篇 (87.7%) で多数を占めていた。次に、論理体系については、「日本的論理体系」が計 32 篇 (56.1%)、「西洋的論理体系」が計 25 篇 (43.9%) で、「日本的論理体系」の方が若干多かった。そして、意見の出現位置については、「双括型」が計 45 篇 (78.9%) で、「頭括型」の計 7 篇 (12.3%) と「尾括型」の計 5 篇 (8.8%) を大きく上

回っており、論理的な文章や意見表明のスピーチに適した「三段落構成」と「双括型」の2つの型はかなり定着していると思われる。

次に、構成要素の配置を見してみる。次の表7は学習者のスピーチ原稿57篇の「序論」「本論」「結論」の各段落に出現した基本的構成要素とその配置を整理したものである。学習者のスピーチ原稿の中には、「本論」に《理由》と《証拠》が複数回出現しているものもあるが、分析の便宜上、「理由→証拠」で統一することにした。例えば、上記表5の原稿1の「本論」は、「《理由》→《証拠》→《理由》→《証拠》→《反論》→《論破》」という配置になっているが、表7では「理由→証拠→反論→論破」に分類される。

表7 学習者のスピーチ原稿57篇における基本的構成要素の配置

論理構成のタイプ			各段落における基本的構成要素の配置			篇数		
			「序論」	「本論」	「結論」	小計	合計	
三段落構成	日本的論理体系	双括型	導入→主張→	理由→証拠→	結論	18	26	
			主張→	理由→証拠→	結論	4		
			導入→主張→	理由→	結論	2		
			主張→導入→	理由→証拠→	結論	1		
			主張→導入→	理由→	結論	1		
		尾括型	導入→	理由→証拠→	結論	1	3	
			導入→	証拠→理由→	結論	1		
			導入→	理由→	結論	1		
			導入→主張→	理由→証拠→反論→論破→	結論	6		19
			導入→主張→	反論→論破→	結論	3		
	主張→	理由→証拠→反論→論破→	結論	2				
	導入→主張→	理由→反論→論破→	結論	2				
	導入→主張→	証拠→理由→反論→論破→	結論	1				
	主張→	証拠→理由→反論→論破→	結論	1				
	主張→	理由→反論→論破→	結論	1				
	導入→主張→	反論→論破→証拠→理由→	結論	1				
	導入→主張→	反論→論破→理由→	結論	1				
	主張→	反論→論破→	結論	1				
	西洋的論理体系	尾括型	導入→	証拠→理由→反論→論破→	結論	1	2	
導入→			反論→論破→	結論	1			
二	日	頭	導入→主張→	理由→証拠→		2	3	

段落構成	本的	括型	導入→主張→	理由→		1	
	西洋的	頭括型	導入→主張→	理由→証拠→反論→論破		3	4
			導入→主張→	理由→ 反論→論破→		1	

先に述べたように、本調査の原稿データは賛否が大きく分かれるテーマについて意見を述べたもので、「西洋的論理体系」の方が適切だと考えられる。しかし、本調査で「西洋的論理体系」に分類される57篇中25篇(43.9%)の原稿のうち、各構成要素が「《導入》→《主張》→《理由》→《証拠》→《反論》→《論破》→《結論》」という理想的な配置になっている原稿は6篇で、全体の僅か10.5%だった。「本論」部分を取り出してみても、「《理由》→《証拠》→《反論》→《論破》」という配置の原稿は11篇で、全体の19.3%、2割弱程度であった。この点から、学習者の「西洋的論理体系」の習熟度はそれほど高くないことが窺える。これに対し、「日本的論理体系」に分類される57篇中32篇(56.1%)の原稿のうち、「《導入》→《主張》→《理由》→《証拠》→《結論》」という理想的な配置になっている原稿は18篇で、全体の31.6%を占めていた。また、32篇のうち、「本論」部分が「《理由》→《証拠》」という配置の原稿は26篇で、全体の45.6%、半数近くに達していた。こうした結果から、「日本的論理体系」は「西洋的論理体系」より習熟度が高いと考えられる。ここまでの分析結果は、本間(2020)と概ね一致している。

5.2 内容面における傾向と問題点

前述の通り、スピーチは「序論・本論・結論」の三段落で構成し、「序論」と「結論」で主張を繰り返すのが聞き手にとって理解しやすく、適した形だとされている。また、全体の割合としては、「序論」を10%台、「本論」を60%台、「結論」を10%台にまとめるのがよいとされている(宇野1989:87-88、古宮2018:1)。以下では、まず、「序論」「本論」「結論」の各段落が文章全体に占める割合を見てか

ら（各段落の割合は文字数で計算）、内容面における傾向と問題点を整理する。ある段落の長さはその段落だけでなく、文章全体の質に影響するためである。

5.2.1 「序論」の段落

「序論」の基本的構成要素は、《導入》と《主張》の2つである。主題に関する背景知識や現状説明を簡潔・端的に伝え、それに対する自分の意見を述べることで、スピーチの方向性が明確化され、聞き手にとって理解しやすいものになる。前述した通り、学習者のスピーチ原稿 57 篇の論理構成は、意見の出現位置によって双括型・頭括型・尾括型の3タイプに分類できるが、いずれのタイプも《導入》が基本的構成要素となっている。本調査では学習者の原稿 57 篇中 48 篇（84.2%）に《導入》があり、その有無と長さが「序論」の割合だけでなく、文章全体の質と大きく関わっていた。

次の図3は、学習者のスピーチ原稿計 57 篇における「序論」の割合分布をグラフ化したものである。図3の最終行「合計」、つまり [GMO] [コンビニ] [マスク] の3つのテーマで書かれた学習者のスピーチ原稿計 57 篇における「序論」の割合分布を見ると、理想とされる10%台の原稿は13篇で22.8%とそれほど多くない。そして、それより小さい10%台未満が10篇で17.5%、それより大きい20~40%台と50%台以上がそれぞれ27篇と7篇で合わせて59.7%と、「序論」の割合が大きいことが傾向として見て取れる。

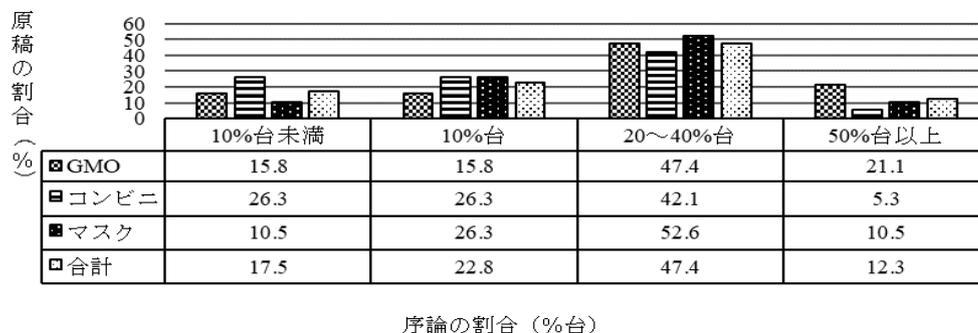


図3 学習者のスピーチ原稿 57 篇における「序論」の割合分布

「序論」の割合が10%台未満と小さいものについては、下記表8の原稿2のように《主張》のみで《導入》がないか、下記表9の原稿3のように、《導入》で聞き手が話し手の《主張》を無理なく理解できるだけの背景知識や現状説明が十分には示されていないことが主な原因となっており、どちらも少し唐突な印象を受ける。

表8 学習者のスピーチ原稿2（[コンビニ]「序論」部分）

序論 →《主張》私は24時間営業を廃止すべきだと思います。	本論 →《理由》なぜなら、一番重要な理由は人手不足だからです。
--------------------------------------	--

表9 学習者のスピーチ原稿3（[GMO]「序論」部分）

序論 →《導入》GMOはいわゆる遺伝子組換えの作物です。食糧問題や環境問題の解決が期待されています。《主張》しかし、私は台湾でGMOの商業栽培を解禁することに反対します。
--

一方、「序論」の割合が20～40%台、又は50%台以上と大きいものについては、下記表10の原稿4のように、《導入》で論題は何か具体的に示されないまま、文がだらだらと続いているものがほとんどであった。原稿4の場合、台湾におけるGMOの商業栽培解禁に対する賛否の意見表明が本来の目的であるが、「結論」で主張を述べる尾括型の論理構成であることも要因となって、文末に近づくまでGMOの紹介を目的とするスピーチだと誤解させるような、意図が掴みにくい内容になっている。

表10 学習者のスピーチ原稿4（[GMO]全文）

序論 →《導入》現在、遺伝子組換え作物（略称GMO）が世界中で普及しています。しかし、多くの方はまだ、遺伝子組換え作物というものについての基礎知識を身につけていません。また私自身もよく知らないので、ネットで遺伝子組換え作物についての基礎情報を調べてみました。ネットで調べた結果により、遺伝子組み換えを簡単に説明すると、人間が利用できそうな性質を持った遺伝子を発見し、それを別の生物のDNAの中に組み込むのが遺伝子組み換えです。 遺伝子組み換えはたくさんのメリットがあります。たとえば、貧血の予防に効果がある鉄含量の高い米の栽培です。しかし、なぜ農業と人にいい影響を与える遺伝子組み換えの商業栽培は、台湾ではまだ禁止されているのでし

ようか。そして、「台湾でも GMO の商業栽培を解禁するべきだ」と言う人がいるその一方で、「GMO の商業栽培を解禁するべきではない」と言う人もいます。それは遺伝子組み換えがメリットを持つとともに、デメリットもたくさんだからです。

これから、遺伝子組み換えのメリットとデメリットの例を三つずつ挙げます。まず、メリットから。一つ目は、大量単一作物を栽培すると、生産コストを引き下げられるということ。二つ目は、種の壁を越えた掛け合わせが可能で、人類に役立つ新たな作物を栽培できるということ。三つ目は、除草剤をかけても枯れないという「除草剤耐性」があるということ。除草剤をかけると他の雑草はすべて枯れ、その作物だけが生き残るため、除草の手間が省けること。しかし、同時に三つのデメリットもあります。一つ目は、除草剤を大量に使うと、雑草の耐性菌が高まり、スーパー雑草になり、生態系に悪いということ。二つ目は、多国籍企業が遺伝子組み換え作物の種パテントを持って、市場を独占してしまうと、農家の生計に打撃を与えるということ。三つ目は、大量単一作物を栽培すると、生物多様性が下がる恐れがあること。

本論→《理由》人々は遺伝子組み換え作物のメリットを享受するとともに、相当のリスクをおかしています。今、人はメリットを享受する準備ができたが、人や環境にとっての悪い影響に対する防備がまだ準備できていません。

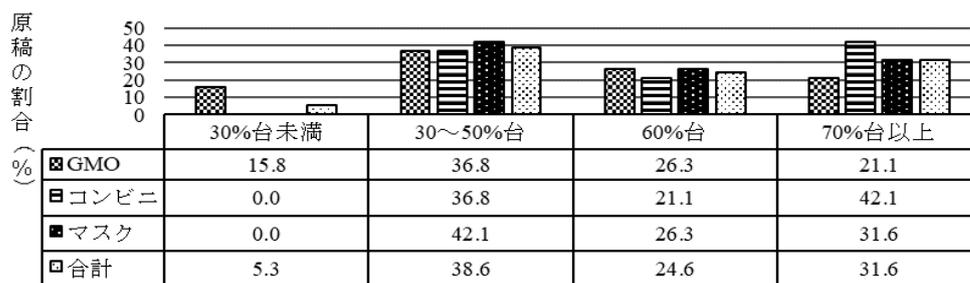
結論→《結論》そのため、そのデメリットの解決策が見つかるまで、わたしは「GMO の商業栽培を解禁するべきではない」と考えています。

以上から、「序論」で観察された内容面での傾向・問題点として、(1)《導入》の話題提示が不十分、(2)《導入》の話題提示が冗長かつ不明瞭、(3)《主張》の欠落、の3つが挙げられる。また、本調査で見られた《導入》の「だらだら文」で提示された情報の中には、「本論」で自分の《主張》を支える根拠として使用できるものが少なくなかった。それを《導入》で使用し、「本論」では十分な根拠をもって論を展開していないため、全体として見た場合、論理的な説得力に乏しい文章になってしまっていた。

5.2.2 「本論」の段落

「本論」の基本的構成要素は、《理由》《証拠》《反論》《論破》の4つである。「本論」では、十分な根拠をもって説得力ある論を展開することが求められる。次の図4は、学習者のスピーチ原稿計57篇における「本論」の割合分布をグラフ化したものである。図4の最終行「合計」における「本論」の割合分布を見ると、理想とされ

る 60%台の原稿は 14 編で 24.6%、それより小さい 30%台未満と 30～50%台がそれぞれ 3 篇と 22 篇で合わせて 43.9%、それより大きい 70%台以上が 18 篇で 31.6%と、「本論」の割合が小さいか、又は大きいという二極化の傾向が見て取れる。



本論の割合 (%台)

図 4 学習者のスピーチ原稿 57 篇における「本論」の割合分布

「本論」の割合が 30%台未満、又は 30～50%台と小さいものについては、例えば、上記表 10 の原稿 4 のように「序論」の割合が大きい原稿は、相対的に「本論」の割合が小さい。こうした原稿は前述したように、「本論」で主張を支える根拠が十分に示されていないことから、論理的な説得力に欠けるものが多い。一方、「本論」の割合が 70%台以上と大きいものについては、学習者が自分の意見を相手に納得してもらい、又は自分と対立する意見の相手を説得するために十分な根拠を示し、説明を尽くそうとした結果という一面もあるだろうが、下記表 11 の原稿 5 のように客観性のある記述が乏しく、自分の見方をだらだらと書いているものも見られた。

表 11 学習者のスピーチ原稿 5 ([マスク]「本論」部分)

(前略) 個人的にはとても賛成で、この政策は非常に良いなあと思います。
本論→《理由》何故ならというと、新型コロナウイルスのせいで、国々が今危ない状況に陥っています。新型コロナウイルスみたいなものは自分の国だけ予防するだけではなく、他の国と一緒に予防するものだと思います。ですから、もし我が国は力があって、他の国に支援を与えられるなら、もちろんそれをやるべきだと思います。国々とお互い助け合って、一緒に進歩していくのがとても良いと思います。《理由》そして、台湾の国際地位は中国のせい

で、いつも曖昧です。ですから、今回はこの政策を通じて台湾の国際地位を少しでも上げられるなら、この政策は悪いか良いかとは言えない、むしろ最高の政策だと私はそう思います。

《反論》でも、この政策が実行する前に、私も他の人みたいに少し疑問が心から出てきました。マスク外交はとても良いですが、マスクを外国に送ったら、国民の分はどうするのか？量はほんとに足りるのか？この政策を実行するには、まず国民みんなのマスクの量をちゃんと用意するべきだと私はそう思います。そうしないと、万が一の状況が発生したら、みんながパニックの状態になっていくからです。《論破》しかし、今の状況を見て、私の心配はいらなようです。台湾のマスク生産力は今一日千万ぐらい作れるらしくて、国のマスク保存量はちょっとぎりぎりだが、前期より良くなったという状態です。今台湾のマスク生産力を見て、この政策を実行する前に、政府もきっとこのぐらいのこともちゃんと考えたなあと思いました。他人を助ける前に、自分の保護もとても重要なことです。ですから、政府が今まで決めた新型コロナウイルスに対する方針を見て、彼らが国民の安全を一番前に考えるのがとても感動です。そして、余裕が少しあるとき、他国を支援してマスクを無料で送って、共にウイルスと戦うのがとても良いと思います。

そのほか、「結論」で述べるはずの提言や所感を「本論」で述べているために、「本論」の割合が大きくなっているものもあった。例えば、下記表 12 の原稿 6 では、主題からずれた提言（下線部）が長々と述べられている。原稿 6 で提言されているのは、世界の食料不足問題を解決するために、先進国が中心となり食品ロスを減らすことや食料の再配分を行うことである。このように論理的なつながりが切れてしまうと、話し手が一体何を伝えたいのか分かりにくく、説得力も失われてしまう。

表 12 学習者のスピーチ原稿 6（[GMO]「本論」部分）

（前略）私は GMO の商業栽培を解禁するべきではないと思います。 **本論→**
《反論》確かに遺伝子組換え作物には害虫を防ぐことや作物にウイルス抵抗性の付与、作物栄養価値の向上、作物収穫量を増やすなどの利点があり、実際に遺伝子組換え技術を利用し、飢饉を改善する国もありますが、《論破》GMO の商業栽培で環境に悪い影響を齎す可能性もあります。例を挙げれば、特定の作物を食物とする虫が絶滅したら、その虫をエサとする鳥も一緒に絶滅します。それと、GMO を商業栽培する前に、必ず安全性を試す実験を行いますが、人体実験の時間は短いため、GMO は 100%安全とは確認できません。
今の台湾では食糧危機がないので、GMO の商業栽培で食糧問題を解決するより、先に食物の無駄を解決すべきだと思います。国連のレポートによると、世界の 4 分 1 の食物の無駄を減らすだけで、すべての人が満腹できます。特

に先進国の方が発展途上国や未開発国より食品廃棄の問題が深刻しています。今の台湾には食物銀行や残食アプリ、残食レストランを成立し、食物の無駄を減らしていますが、根本的な方法は私たちが食材を使い切り、残さないことが大切だと思います。資源の配分も課題の一つとなり、ある国の資源は豊かで、食物をいくら食べても残りますが、ある国の資源はすごく貧乏で、食物が不足しています。国と国の境を越えて、イデオロギーを捨てて、現実とかけ離れた政策をやめ、実際的に食糧問題を解決することが大切だと思います。

「本論」で観察された内容面における傾向・問題点は、上記のほかに、(1)《理由》と《証拠》の混同、(2)《理由》と《証拠》の関係性が不明瞭、(3)《証拠》と《論破》の客観性・説得力の不足、(4)複眼的な考察力の不足、の4つに整理できる。以下で具体例を挙げながら詳しく見ていく。

(1) 《理由》と《証拠》の混同。

論理的思考力の育成を目的とする指導で活用される論証モデルに、「主張・データ・理由づけ」の3要素から成る「三角ロジック」がある。「主張」は自分が言いたいこと、「データ」は「主張」の根拠となる具体的な事実（事例・報告・専門家の意見・統計等）、「理由づけ」は「データ」と「主張」を結びつけるもので、「データ」を解釈するための考え方であり、相手に納得してもらうためには、「主張」「データ」「理由づけ」がそれぞれ噛み合っている必要がある（西部2003:42-43）。「主張」「データ」「理由づけ」はそれぞれ本稿の《主張》《証拠》《理由》に相当する。本稿の分類基準では、《理由》は《主張》の後に続いて、「なぜなら、～からだ。」と短くまとめることができる。本調査では、下記表13の原稿7のように、「データ」と「理由づけ」が区別されていない、つまり《証拠》と《理由》を混同している原稿が散見された（下線部分が《理由》）。

表13 学習者のスピーチ原稿7（[マスク]「本論」一部）

原文	修正例
なぜなら、台湾の政府は新型コロナウイルスの感染が爆発した初期に素	《理由》なぜなら、台湾には他国を助ける余裕があると思うからで

<p>早く対応政策を発表し、国民の不安を大幅に軽減し、今台湾の国民も 14 日間にマスクを 9 枚まで買えるので、<u>台湾は他国を助ける余裕があると思うから</u>です。政府から打ち出したマスクの輸出制限措置や実名制購入などの政策のおかげで、私たちは他国より安全と言える環境で通学できます。</p>	<p>す。《証拠》今台湾の国民は 2 週間に 9 枚までマスクを買うことができます。政府が新型コロナウイルスの感染拡大初期に打ち出したマスクの輸出制限措置や実名制購入などの政策のおかげで、私たちは必要な量のマスクを確保し、他国より安全と言える環境で生活しています。</p>
--	---

(2) 《理由》と《証拠》の関連性が不明瞭。

本調査では、下記表 14 の原稿 8 のように「理由づけ」の仕方や「データ」の使用が不適切で、《理由》と《証拠》の間の関連性が掴みにくい原稿が散見された（下線部分が《理由》）。

表 14 学習者のスピーチ原稿 8 ([マスク]「本論」一部)

原文	修正例
<p>2 つ目は、<u>新型コロナウイルスの感染が拡大する地域がもっとひどい状況になると、台湾はいまより倍の力を入れなければ、防疫工作をしっかりとできない</u>と思います。今の社会はグローバル化ですから、アジアで発生した新型コロナウイルスはヨーロッパでも見つけました。米国の政府は今回の新型コロナウイルスを軽視して、感染がここまで拡大すると思わなかったから、防疫対策をうまくできなくて、感染人数が世界一位になりました</p>	<p>《理由》2 つ目は、私たち自身を守ることになるからです。《証拠》グローバル化の進展を背景に、中国で発生した新型コロナウイルス感染症は短期間で欧米に拡散しました。このうち米国は、政府の対応ミスから感染者数が世界第一位になりました。台湾政府は「誰かを助けることは、自分も助けることだ」と言っていますが、欧米などの感染状況が深刻な国々にマスクを贈って事態の鎮静化に協力することは、台湾にウイルスが持ち込まれて感染が拡大するリスクを抑えることにつながるのです。</p>

(3) 《証拠》と《論破》の客観性・説得力の不足。

まず、《証拠》について見てみる。本調査では、下記表 15 の原稿 9 のように、《理由》を具体化する事例や《理由》の真実性を立証する報告・統計など客観的な《証拠》を示さずに、自己体験に基づく主観的な考えを述べるだけの原稿が散見された。

表 15 学習者のスピーチ原稿 9 ([コンビニ]「本論」一部)

原文	修正例
----	-----

<p>まずは利用者として、深夜営業の店がないと困ります。私は夜食を食べないと生きられない人間ですから、よくコンビニの食べ物を買います。コンビニの食べ物は安いですし、すぐに食べられますし、種類もたくさんあります。ですから、私みたいな人だけではなく、仕事で遅く帰るサラリーマンなども便利だと思っている人も多いでしょう。それに、深夜になって店を閉めたら、町は暗くなって、社会の治安にもある程度で影響するでしょう。</p>	<p>《理由》まずは、コンビニは私たちの生活に不可欠な社会インフラだからです。《証拠》日本で行われた調査で、コンビニは地域社会で単に買物の拠点であるだけでなく、治安維持や防犯対策、災害時の支援、行政サービスの提供など重要な役割を担っていることが明らかになりました。これを裏付けるように、別の調査でコンビニの24時間営業の継続を望む理由として、「夜間の治安維持や防犯対策に必要」「緊急時や災害時のライフラインとして必要」「深夜・早朝勤務者にとって便利」などが挙げられています。</p>
---	---

次に、《論破》について見てみる。本調査では、下記表 16 の原稿 10 のように自分の主張の優位性を示す見解を提示せず、又は下記表 17 の原稿 11 のように相手の主張の弱点を指摘せず、ただ感情論を展開するだけの原稿が散見された（下線部）。また、下記表 18 の原稿 12 のように《論破》で《理由》や《証拠》として述べたことを繰り返すだけで、自分の主張の優位性を明確にする新たな客観的情報を提示していない原稿が散見された。「本論」の段落で最も目についたのが、これら《論破》をうまく構築できないという問題であった。

表 16 学習者のスピーチ原稿 10（[マスク]「本論」一部）

原文	修正例
<p>マスク外交に反対する人もいます。反対の人たちはたとえ今外国にマスクをあげても、今後台湾が困難にあったとき、台湾を助けないかもしれないと言っています。<u>でも、本当に心の中から他人を助けたいと思ったら、相手からの恩返しを求めないでしょう。</u></p>	<p>《反論》マスク外交に反対する人もいます。反対派は、外国にマスクを贈っても、将来台湾が困難に遭った時、助けてもらえるとは限らないと言っています。《論破》でも、たとえ将来一部の国から見返りがなくても、マスク外交は期待する成果を着実に上げています。台湾の国際社会での存在感を示すことができ、各国との関係強化も図れました。すでにアメリカを含む多数の国が新型コロナウイルス対策で台湾との連携を強化したい考えや台湾の WHO へのオブザーバー参加を</p>

	支持する考えを表明しています。
--	-----------------

表 17 学習者のスピーチ原稿 11 ([コンビニ]「本論」一部)

原文	修正例
<p>加盟店が苦しんでいる一方で、社会では 24 時間営業をやめれば困るとい う声も上がってきました。コンビニは 夜道を帰る時や地震があった時に社 会的な役割を果たすということです。 しかし、これはオーナーが身を削って 24 時間営業を続けているという側面 があります。無理やりに営業を続けさ せるという考えは、あまりにも思いや りがないではないでしょうか。</p>	<p>《反論》加盟店が苦しんでいる一方 で、社会には 24 時間営業の廃止は困 るという声もあります。コンビニが夜 間や災害時の社会インフラとしての 役割を担っているからです。《論破》 しかし、これは本来行政が担うべき役 割であり、政府や本部から何の支援も 受けていない加盟店にそれを押し付 けるのは間違っています。コンビニ加 盟店オーナーが結成した「コンビニ加 盟店ユニオン」は政府への陳情書の中 で「零細小売店である私たちが赤字を 被って、或いは過重労働によって 24 時間営業を維持することは、とても困 難」だと言っています。</p>

表 18 学習者のスピーチ原稿 12 ([GMO] 全文)

原文	修正例
<p>序論→《導入》バイテク情報普及会 によると、2017 年に遺伝子組み換え 作物 (GMO) は世界 24 カ国で合計 1 億 8980 万 ha の農地で栽培されてい ます。しかし、台湾ではまだできません。 米国、ブラジルやアルゼンチンなどの 栽培できる国から輸入してくれば大 丈夫ですが、栽培するのが禁止され ています。この件について、解禁する べきだ、解禁しない方がいいでしょ うという様々な意見がありますが、《主張》 どちらと云えば、個人的には解禁す るべきではないと考えます。本論→なぜ という、以下のように理由が二つあ ります。</p> <p>《理由》まず、台湾の面積が小さい ので、GMO の栽培の市場に手を出し ても利益が出ないと考えられます。 《証拠》アメリカの国土面積は約 963</p>	<p>序論→《導入》バイテク情報普及会 によると、2017 年時点で遺伝子組み換 え作物 (GMO) は世界 24 カ国計 1 億 8980 万 ha の農地で栽培されていま した。しかし、台湾ではまだ栽培され ていません。アメリカやブラジル、アル ゼンチンなどから輸入することはで きますが、栽培は禁止されています。 現在、台湾では GMO の商業栽培につ いて解禁するべきだ、いやしない方が いいなど様々な意見がありますが、 《主張》私はどちらかと言えば、解禁 するべきではないと考えます。</p> <p>本論→その理由は 2 つあります。《理 由》まず、台湾は面積が小さいので、 GMO の商業栽培で利益を上げるのは 難しいからです。《証拠》アメリカの 国土面積は約 963 万 km² で、台湾の約 268 倍です。台湾が GMO の商業栽培</p>

<p>万平方キロメートルであり、台湾のおよそ 268 倍になります。もし、台湾に GMO を導入すれば、生産量にしても、供給量にしても、現在世界で GMO を栽培している国の相手になれないのではないのでしょうか。生産性が割と低い台湾に、GMO は不向きだと思います。</p> <p><u>《理由》</u> また、GMO より、台湾には収益性の高い野菜やお花を植え育てる方が合います。<u>《証拠》</u> Alter Trade Japan によると、GMO を導入すると、人手がなくても機械を使って大規模農業ができる農業になります。少数の豊かな農家はこれで利益を得ますが、多くの農民は土地を失い、社会的格差が大きくなります。<u>そこで、GMO より、台湾には有機農業や観光農業などを発展した方がいいでしょう。</u></p> <p><u>《反論》</u> GMO を栽培すれば、生産のコストが下がり、品質がいい農作物を育てることができるという意見もありますが、<u>《論破》</u> すべての国に向けてというわけではありません。台湾のような面積が小さい国ならば、GMO の栽培の市場に手を出しても利益が出ないや農民の土地を失い、社会的格差が大きくなる問題が起こる可能性があります。</p>	<p>に乗り出しても、生産量・輸出量のいずれもアメリカのように GMO を大規模栽培している国に太刀打ちできないでしょう。ですから、台湾には GMO の商業栽培は不向きだと思います。</p> <p><u>《理由》</u> 次に、新たな社会問題が生まれる可能性があるからです。<u>《証拠》</u> Alter Trade Japan によると、GMO 栽培を導入すると、機械を使った大規模農業が中心となり、少数の豊かな農家はこれで利益を得ることができますが、多くの農民は土地を失い、社会的格差が大きくなる恐れがあります。</p> <p><u>《反論》</u> GMO を栽培すれば、生産コストが下がり、品質のいい農作物を生産できるという意見もありますが、<u>《論破》</u> 特定の企業から GM 種子や専用の農薬をセットで購入しなければならないので、コストが割高になるという報告もあります。また、GMO 食品や GMO 飼料の安全性を証明する研究はありません。そのほか、GMO と非 GMO の交雑などによる生態系破壊の問題も指摘されています。</p> <p><u>結論→《結論》</u> 以上のことから、私は GMO の商業栽培を解禁することに反対です。<u>《提言》</u> 長期的な視点をもって相対的に考えれば、台湾は高い収益が期待できる有機農業や新たな収益を生み出す観光農業などを発展させた方がよいのではないのでしょうか。</p>
--	---

上記表 18 の原稿 12 については、本来なら「結論」の段落で《結論》の後に述べるはずの提言（下線部）を 2 つ目の《理由》として述べている点も問題である。

(4) 複眼的な考察力の不足。

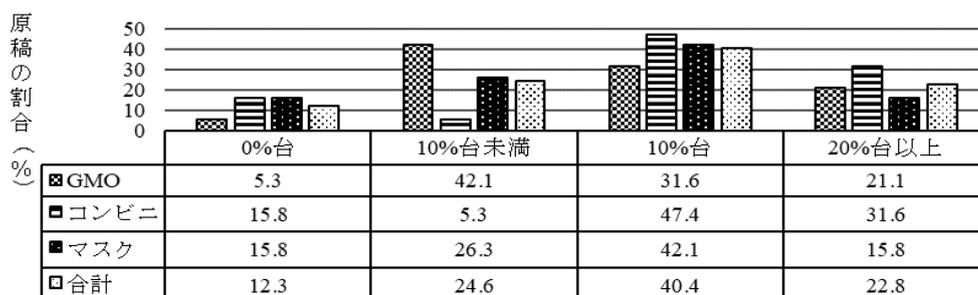
本稿では、いずれのテーマについても多面的・多角的な考察力の乏しさを感じさせる原稿が散見された。例えば、[GMO] では、一

一般的に言われるメリットやデメリットを並べ立てるだけで、台湾の農業の特徴と課題（温暖な気候や肥沃な土壌など恵まれた条件・農業技術の高さ・農地面積の狭さ・農業従事者の減少や高齢化・食料自給率の低さなど）、食の意識の変化（健康志向の高まりなど）、近未来における食料・環境・エネルギー問題などを考慮して GMO の商業栽培解禁が台湾にとって必要かつ適切かを論じているものは極少数であった。[コンビニ] では、消費者・本部・物流会社の立場から、或いは顧客の利便性や社会の期待（インフラ機能の維持）を理由に 24 時間営業の継続を主張するだけで、本部との不公正な契約に縛られ、人手不足・人件費高騰・長時間労働等に苦しみながら、本部や政府の支援もないままに社会インフラとしての責務を押し付けられている加盟店オーナーの立場は全く考慮していないものが多数見られた。[マスク外交] では、マスクの充足状況や人道主義の普遍的価値を強調するだけで、マスク外交の政策目的・成果目標やその達成状況には言及していない原稿が見られた。

5.2.3 「結論」の段落

「結論」の基本的構成要素である《結論》には、「序論」で述べた《主張》を強化し、論を締め括る働きがある（牧野・永野 2002:228; 橋本 2008:20-21）。「結論」では、「簡潔に分かりやすく」を原則に、「序論」の《主張》に変化を付けて述べたり、《結論》を述べてから、提言・所感・質問等で締め括るなどの工夫が必要になる（橋本 2008:21; 古宮 2018:2; 坂口 2018:1）。本調査では、「結論」の段落についてもいくつかの傾向・問題点が観察された。

次の図 5 は、学習者のスピーチ原稿計 57 篇における「結論」の割合分布をグラフ化したものである。図 5 の最終行「合計」における「結論」の割合分布を見ると、理想とされる 10% 台の原稿が 23 篇で 40.4% と最も多いものの、それより小さい 0% 台と 10% 台未満がそれぞれ 7 篇と 14 篇で合わせて 36.9%、それより大きい 20% 台以上が 13 篇で 22.8% を占めている。



結論の割合 (%台)

図 5 学習者のスピーチ原稿 57 篇における「結論」の割合分布

割合別に見ていくと、「結論」の割合が 0% 台の原稿は、上記表 18 の原稿 12 のような「序論・本論」の二段落構成である。最後にもう一度自分の主張を明確にしてスピーチを締め括る「結論」の段落がないため、どうしても中途半端な印象を受ける。次に、10% 台未満の原稿は、下記表 19 の原稿 13 のように、《結論》のみ、又は《結論》を述べてから短い提言・所感・質問等で文章を終了している。

表 19 学習者のスピーチ原稿 13 ([GMO] 一部)

序論 →	(前略)《主張》台湾における GMO の商業栽培に関しては、解禁すべきではないと思います。 (中略)
結論 →	《結論》以上の理由に基づいて、台湾における GMO の商業栽培を解禁することが賛成できません。

一方、20% 台以上の原稿では、下記表 20 の原稿 14 のように、《結論》の後に提言や所感が長々と述べられている(下線部)。こうした原稿は、相対的に「本論」の割合が小さく、主張を支える十分な根拠が示されていないので、全体として説得力に欠ける嫌いがある。

表 20 学習者のスピーチ原稿 14 ([コンビニ] 一部)

序論 →	(前略)《主張》私はコンビニの 24 時間営業廃止を反対します。 (中略)
結論 →	《結論》そのため、私はコンビニの 24 時間営業は必要だと思います。では、どうすればコンビニの 24 時間営業廃止を阻止して、オーナーを楽させ

ることができますか。私は、二つの解決策を考えました。一つ目は AI を採用し、深夜を無人コンビニにすることです。この方法は安全性が高く、人手不足の問題も解決します。もし、費用が高いと考えるとしたら、もう一つ方法があります。それは、調査を行い、各地域で最も深夜の利用が多い店だけ 24 時間営業にすることです。周囲数十キロの範囲を絞り、セブンイレブンならセブンイレブン、ファミリーマートならファミリーマートで、一番深夜にお客が来る店だけが営業するといった感じです。以上の提案は、コンビニの問題の解決に少しでも役に立つと私はそう信じます。

そのほか、本調査では、特に [コンビニ] の原稿で、主張 (結論) と矛盾する提言により一貫性が損なわれているものが散見された。上記表 20 の原稿 14 もその一例で、コンビニの 24 時間営業廃止への反対を表明しながら、一部店舗の時短営業を提案している。それなら、「24 時間営業の全店廃止には反対する」或いは「一部店舗の時短営業を認めるべきだ」といった主張で論を展開すべきであろう。

以上から、「結論」で観察された内容面での傾向・問題点として、(1) 《結論》の欠如、(2) 《提言》や《所感》が冗長、(3) 《主張》《結論》《提言》間の一貫性の欠如、の 3 つが挙げられる。

5.2.4 各段落の分析結果のまとめ

以上、台湾人上級学習者のスピーチ原稿を内容面から分析した結果、あるテーマについて、精査した情報を基に筋道を立てて矛盾なく考えを構築し、各段落・各構成要素を適当な長さにして、要点を掴みやすく、分かりやすく伝える力がまだ十分身に付いていないことや、自分の主張の正当性や優位性を適切かつ客観的な事実を用いて秩序立てて述べるのが不得手であることが明らかになった。

6. おわりに

本稿では、台湾の大学の日本語学科 4 年生 (上級レベル) が書いた意見表明スピーチの原稿を論理構成面及び内容面から分析し、その論理的表現力の実態を明らかにすることを試みた。まず、論理構成面の分析で明らかになったのは、次の 3 点である。

- ▶論理的文章やスピーチ原稿に適した三段落構成と双括型の2つの型はかなり定着している。
 - ▶説得力のある効果的な意見表明スピーチの基本的構成要素とその配置はまだ十分理解・習得できていない。
 - ▶自分とは異なる意見を意識し、それに対する自分の意見の優位性を明確にする西洋的論理体系はあまり定着・習熟していない。
- 次に、内容面の分析で明らかになったのは、次の2点である。
- ▶あるテーマについて、精査した情報を基に筋道を立てて矛盾なく考えを構築し、各段落・各構成要素を適当な長さにして、分かりやすく伝える力はまだ十分身に付いていない。
 - ▶自分の主張の正当性や優位性を適切かつ客観的な事実を用いて秩序立てて述べるのが不得手である。

本研究で得られた論理構成面の分析結果は、本間（2020）と概ね一致していた。本研究では論理構成面だけでなく、内容面について詳しい分析を行ったことで、台湾人日本語学習者を対象とする論理的表現力育成のためのスピーチ原稿作成指導法を考える上で役に立つより多くの知見が得られたと考える。今後は、本研究結果に基づき、大学日本語教育における論理的表現力育成のためのスピーチ原稿作成指導案を設計し、指導実践を通してその効果を検証したい。

参考文献

1. 日本語文献

- 飯間浩明（2008）『非論理的な人のための 論理的な文章の書き方入門』東京：ディスカヴァー・トゥエンティワン。
- 井上尚美（1989）『言語論理教育入門—国語科における思考—』東京：明治図書。
- 宇野義方（1989）『国語表現—はなしかた・かきかた—』東京：学術図書。
- 古賀万紀子・青木優子（2012）「論理的表現力育成のためのスピーチ指導—韓国人中級日本語学習者を対象に—」『早稲田日本語教育』

学』第11号、135-153。

国際交流基金（2007）『話すことを教える』東京：ひつじ書房。

土岐哲（2001）「日本語のスピーチ教育」『日本語学』第20巻第6号、東京：明治書院、6-10。

長尾高明（1992）「文章と段落」『日本語学』第11巻第4号、東京：明治書院、26-32。

西部直樹（2003）『「議論力」が身につく技術』東京：あさ出版。

橋本恵子（2008）「日本語の論理表現と教育—「スピーチ構成図」を活用した日本語コミュニケーション教育—」『東アジア日本語教育・日本文化研究』第11輯、15-31。

橋本恵子（2010）「コミュニケーション指導に向けた「スピーチ構成図」の改善—独話から共話、対話へ—」『Kyushu Communication Studies』Vol.8、1-9。

本間美穂（2002）「台湾人日本語学習者の論理的表現力に関する一考察—上級学習者のスピーチ原稿をもとに—」『東呉日語教育学報』第53期、169-198。

牧野由香里・永野和男（1998）「日本式表現法の理解に基づくコミュニケーション・スキル育成のための演習コースの開発」『日本教育工学会誌／日本教育工学雑誌』22(Suppl.)、45-48。

牧野由香里・永野和男（2002）「表現・コミュニケーション能力の育成のためのスピーチ演習カリキュラムの開発」『日本教育工学会論文誌／日本教育工学雑誌』25(4)、225-235。

2. オンライン文献

古宮才由里「第8回 小論文I 文章の「型」・構成ノート」『NHK 高校講座 国語表現』（最終閲覧日:2018年12月18日）

<https://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/kokuhyou/archive/resume008.html>

坂口陽子「第11回 声の表現 スピーチの方法」『NHK 高校講座 国語表現』（最終閲覧日:2018年12月18日）

<https://www.nhk.or.jp/kokokoza/library/tv/kokuhyou/archive/chapter011.html>